

富山大学 教養教育院

令和7年度 第1回

FD研修会報告

Faculty Development Report

FD

REPORT

Liberal Arts and Sciences at **University of Toyama**

目次

1. 開催趣旨と総括	1
2. 開催要項	2
3. FDの様子	3
4. 参加状況・参加アンケート	6

開催趣旨と総括

現在、社会全体が急速にデジタル化し、私たちの生活や仕事のあり方は大きく変わっています。この変化は大学教育にも直接的な影響を与え、従来の講義型の授業だけでは、多様化する学生の学びに十分に答えることが難しい場面が増えてきました。

こうした状況において注目されているのが、「教育アプリ」をはじめとするデジタル技術の活用です。教育アプリは、授業中にアンケートや問題への回答を即時に収集・分析し、結果をフィードバックできるだけでなく、学習履歴を蓄積して一人ひとりに合った課題や指導を提示することを可能にします。さらに、近年では生成 AI などの先端技術が組み合わさることで、教育の個別最適化や学習支援の形は大きく進化しています。

これは単なる教育のデジタル化にとどまらず、教育の質や学習プロセスそのものを新たにするデジタル・トランスフォーメーション(DX)の取り組みと位置づけられます。DX の視点から見ると、教育アプリの導入は「効率化」だけでなく、教育の在り方を根本から変革する契機として期待されるのではないのでしょうか。

本FDでは、教育アプリに精通されている大阪大学の岩居弘樹先生をお招きし、ワークショップ形式を通じて教育アプリを実際に体験しながら、DX の観点から大学教育の未来像を描き、授業改善に役立つ実践的なヒントを共有することを目的としました。参加者は単に講演を聴くだけでなく、自ら手を動かしていくつかのアプリを試し、その場で得られるデータや機能を体感することができました。こうした実践的な体験を通して、デジタル技術が授業の効率化にとどまらず、学習の質を高め、学生一人ひとりに寄り添う教育を実現し得る可能性を強く感じました。

特に、岩居先生によるご説明は非常に分かりやすく、参加者にとって理解を深める大きな助けとなりました。また、ただ解説を受けるだけでなく、「自分の試してみたいことをその場で試す」「疑問に思ったことをすぐに質問する」というスタイルがとられたことで、参加者は主体的に学び、実際の授業改善につながる具体的なイメージを持ち帰ることができました。

今後は、今回のFDで得られた知見を各自の授業に積極的に応用し、その成果や課題を再度持ち寄って共有することで、さらなる授業改善へと繋げていけるのではないのでしょうか。教育アプリやデジタル技術は日進月歩で進化しており、それに対応していくためには、今回のようなFDに加えて、教員同士が気軽に集まり、最新の活用事例や工夫を共有し合える継続的な場を持つことが必要になってくると考えます。

令和7年度教養教育院教育改善推進委員会委員長
福田 翔

令和7年度第1回教養教育院FD 実施計画

テーマ：「教育アプリ×DXで変わる これからの大学教育」

1. 開催趣旨

近年、教育分野におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の進展は、授業運営や学修支援のあり方を大きく変えつつあります。特に教育アプリやAIを活用した自律学習の推進は、学習者中心の教育の実現に向けて注目されています。本FDでは、教育現場での最新の教育アプリやサービスの活用事例やDXの動向を踏まえながら、実際に授業デザインで使えるアプリ・サービスを皆様と一緒に試してみたいと思います。また、学生の自律的な学びを促進し、より主体的に学修に取り組む力を育むための方策について、参加者の皆様とともに議論する機会とします。

2. 開催日時

令和7年9月1日（月）14:30～16:30

3. 実施方法・開催会場

対面開催・共通教育棟A22 教室

4. 対 象

本学教職員

5. 次 第

(1) 開催挨拶・趣旨説明

福田 翔（教養教育院 教育改善推進委員会委員長）

(2) 「教育アプリ×DXで変わるこれからの大学教育」（90分・ワークショップ形式）

司会：安藤 由香里（教養教育院 教授）

講師：岩居 弘樹 氏（大阪大学 D3 センター 教授）

(3) 意見交換（30分）

(4) 閉会挨拶

會澤 宣一（教養教育院長）

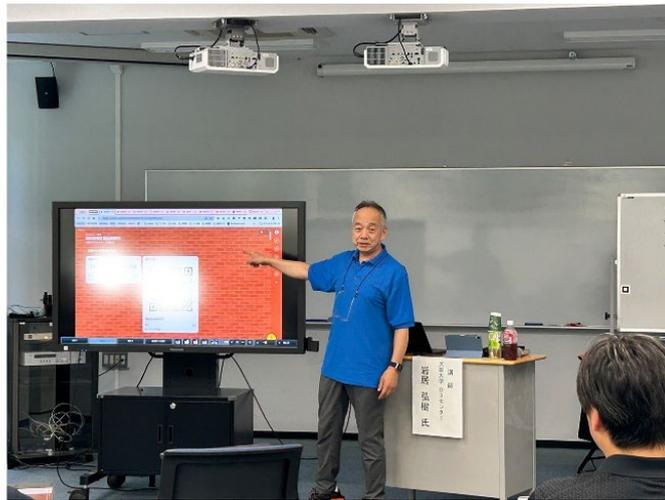
6. 連絡事項

本FDはグループワーク等を用いた体験型のワークショップ形式を予定しています。参加される方は、各自PC・スマートフォン・タブレット等の機器を持参願います。

令和7年度第1回教養教育院FDの様子

テーマ：「教育アプリ×DXで変わる これからの大学教育」

令和7年度第1回教養教育院FDは、教育アプリやサービスを実際に体験しながら、その活用方法を学ぶ実践的なワークショップとして開催されました。当日は20名の教員が参加し、実際にアプリを操作しながら意見を交換し、授業での活用方法について活発な議論が行われました。



Padlet を用いた実践的体験

まずは「Padlet」を使った活動から始まりました。参加者はコメントの書き込みを通して基本的な操作を体験し、その後は動画提出機能や共有設定など、授業で使える応用的な機能を次々と試しました。

- ・ 学生が自分で学習内容を動画に撮影して提出
- ・ 授業の復習として、次回授業前に動画提出を課題化
- ・ 提出状況を一覧で確認できる仕組み

こうした仕組みにより、学生が自発的に学習を振り返り、授業全体の学習効果を高められることが示されました。

教育アプリを用いた海外との交流事例の紹介

紹介された事例の中には、大阪大学とドイツの大学との交流で、学生同士がビデオを送り合いながら学習を深めている実践もありました。コメント機能を使えば、動画・写真・テキストで相互に意見交換でき、学習者同士のつながりを広げることが可能です。

多様な機能の紹介

続いて、授業にすぐ活かせる多様な機能が紹介されました。

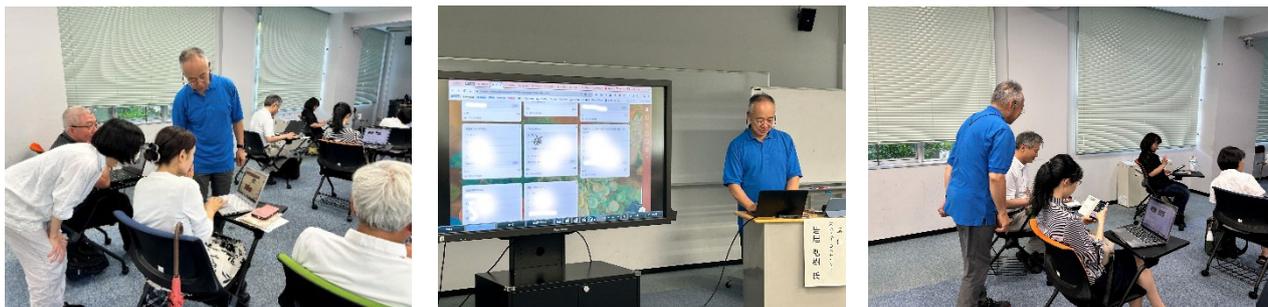
- ・ 投票機能：即時的なアンケートやリメイク機能
- ・ Classroom Screen：時計・タイマー機能で授業進行をサポート
- ・ YouTube 連携：動画の特定の場面を指定して提示可能
- ・ ランダムグループ作成：登録ユーザーを自動で振り分け

さらに、「Vivaldi」というアプリを使えば複数画面を好きなようにカスタマイズでき、「BookWidgets」

では YouTube や音声を利用した問題作成も可能であり、並べ替え問題やランダム問題の生成など、語学教育に役立つ機能が多く含まれていることが紹介されました。

ホワイトボード型アプリの活用

「Canva」のホワイトボード機能や「Padlet」の Sandbox 機能も体験しました。これらを使えば、学生が授業中に書き込んだ内容をそのまま保存・共有でき、さらに AI による自動分類機能を利用することで議論の整理も容易になります。



今回の FD では、参加者が実際にアプリを操作しながら学ぶことで、教育アプリ・サービスの可能性を実感することができました。スマートフォンでも利用できるツールが多く紹介され、学生にとっても取り組みやすい形で授業に取り入れられることが確認されました。

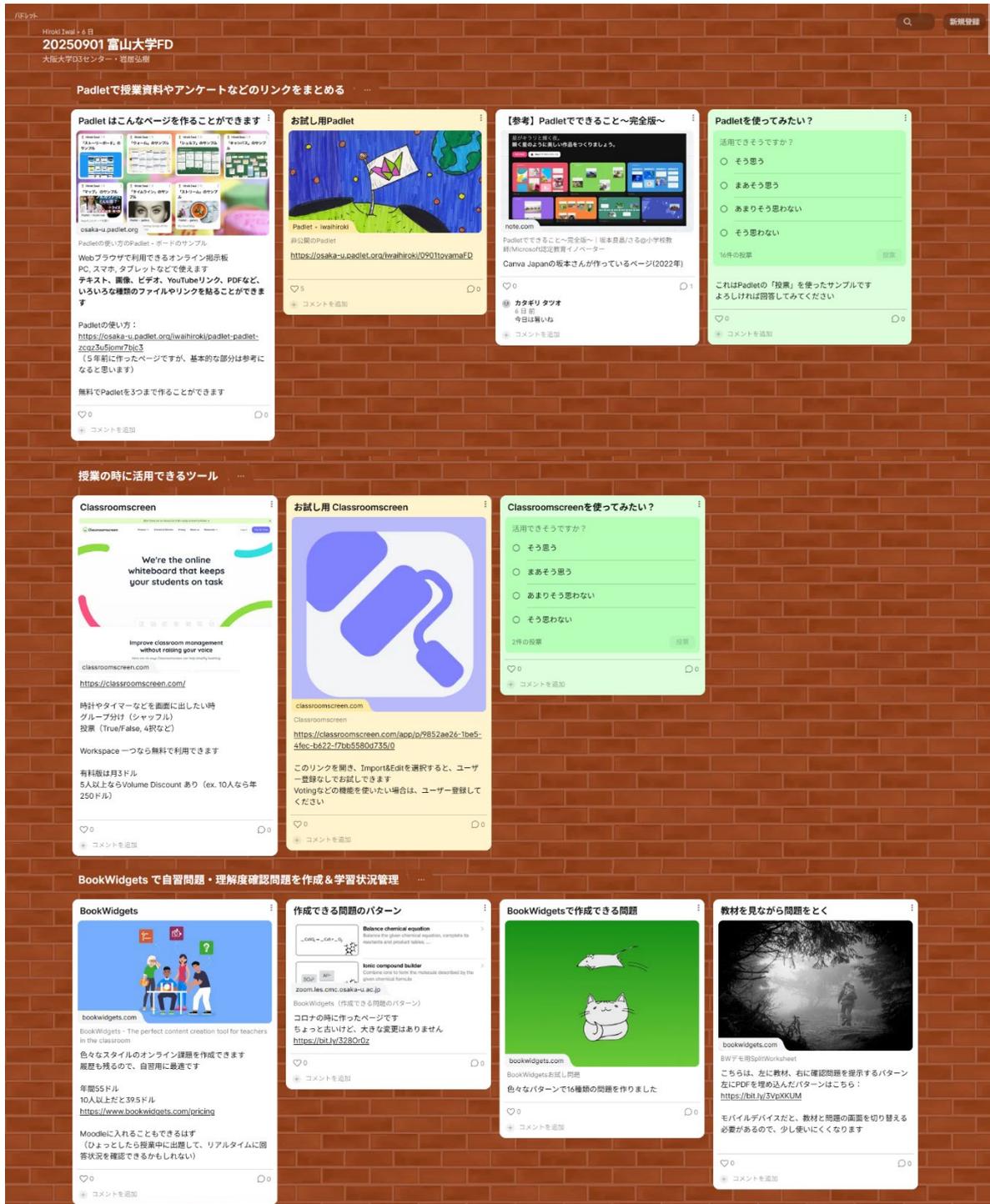
教育アプリ・サービスは単なる効率化の手段にとどまらず、学生の主体的な学びを引き出し、教員と学生のコミュニケーションを豊かにする可能性を秘めています。今回の FD で得られた知見を、今後の授業改善に積極的に活かしていきたいと思えます。



実際に当日使用した Padlet はこちらからご覧いただけます。

• Padlet URL: <https://x.gd/20250901FD>

• Padlet QR コード:



The screenshot shows a Padlet board with a brick background. At the top, it says '20250901 富山大学FD' and '大館大学D3センター・遊歴弘報'. The board is organized into sections:

- Padletで授業資料やアンケートなどのリンクをまとめる**
 - Padletはこんなページを作ることができます**: A card explaining that Padlet allows creating pages for online whiteboards, PC, tablet, and smartphone use. It lists features like text, images, YouTube links, PDFs, and file links. It provides a URL: <https://osaka-u.padlet.org/waihirok/padlet-padlet-zozaki5ufom7h3z>.
 - お試し用 Padlet**: A card with a colorful illustration of a globe and a flag, providing a URL: <https://osaka-u.padlet.org/waihirok/0501toyamaFD>.
 - 【参考】 Padletでできること～完全版～**: A card listing various uses of Padlet, such as creating online whiteboards, sharing documents, and using it for presentations.
 - Padletを使ってみよう?**: A card with a poll asking '活用できそうですか?' with options: 'そう思う', 'まあそう思う', 'あまりそう思わない', 'そう思わない'.
- 授業の時に活用できるツール**
 - Classroomscreen**: A card showing the Classroomscreen interface with the text 'We're the online whiteboard that keeps your students on task'. It lists features like polls and group sharing.
 - お試し用 Classroomscreen**: A card with a blue background and a whiteboard icon, providing a URL: <https://classroomscreen.com/app/07852ae26-1be5-4f6c-b622-77b65590735f/0>.
 - Classroomscreenを使ってみよう?**: A card with a poll asking '活用できそうですか?' with the same options as the Padlet card.
- BookWidgetsで自習問題・理解度確認問題を作成・学習状況管理**
 - BookWidgets**: A card showing the BookWidgets interface with the text 'BookWidgets - The perfect content creation tool for teachers in the classroom'. It lists features like creating interactive content and tracking student progress.
 - 作成できる問題のパターン**: A card showing examples of questions created with BookWidgets, such as 'Balance chemical equation' and 'ionic compound builder'.
 - BookWidgetsで作成できる問題**: A card with a green background and a white cat illustration, stating 'BookWidgetsお試し問題' and '色々なパターンで16種類の問題を作りました'.
 - 教材を見ながら問題をとく**: A card with a dark background and a person reading, stating 'EWW字用SplitWorksheet' and providing a URL: <https://bit.ly/3VpXKUM>.

令和7年度第1回教養教育院FD
「教育アプリ×DXで変わる これからの大学教育」参加状況

【参加者内訳】

教員	
役員	1
教養教育学系	17
医学系	1
教育研究推進系	1
小計	20

職員	0
----	---

非常勤講師	0
-------	---

合計	20
----	----

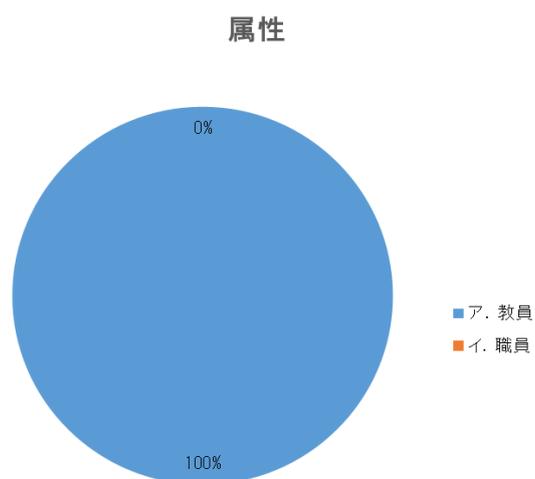
令和7年度第1回教養教育院FD参加者アンケート集計結果

FD参加者数：20名

(内訳：教員20名，職員0名)

アンケート回答者数：16名

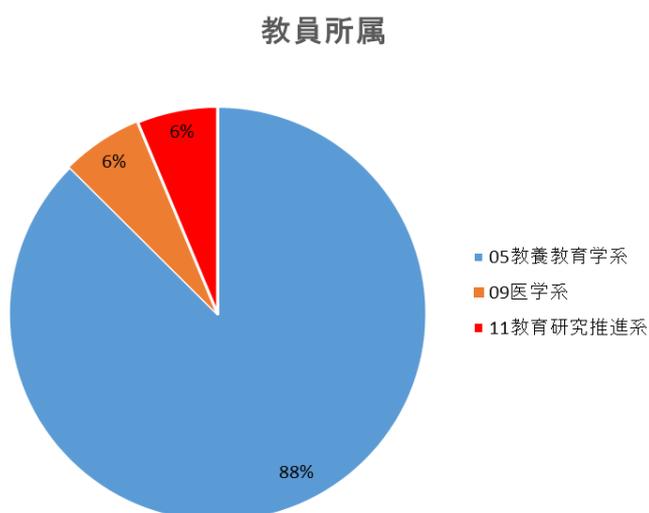
1. 属性を選んでください。



属性

ア. 教員	16
イ. 職員	0
計	16

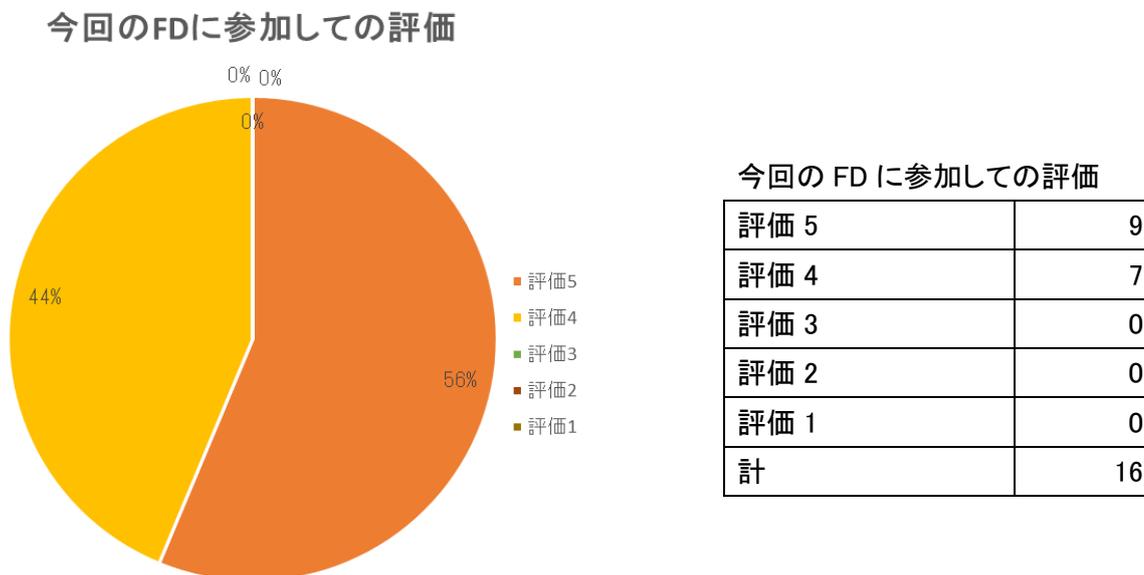
2. 所属を選んでください。(教員のみ)



教員所属

05 教養教育学系	14
09 医学系	1
11 教育研究推進系	1
計	16

3. 今回の教養教育院FDに参加しての評価を5段階評価で入力ください。



4. 今回の教養教育院FDについての感想やご意見があれば、ご記入ください。

- 使ったことのないアプリの使い方がわかりとても参考になりました。さまざまなツールがあり、授業スタイルに応じて使用を工夫したら良いと思いました。ありがとうございました。
- 便利なツールを知ることができました。使いこなすにはまだまだですが、使いこなせばいろいろできそうです。
- 使えそう
- 様々なアプリの使い方について勉強になった。ただ、自分の授業で活用するイメージがまだうまく湧かない。また、スマホを含め授業中に学生全員ネットを使わせると繋がらなくなるのではないかという懸念がある。（「充電がない」といった学生も出ると思われるので対応が必要になる）
- 様々な教育アプリを紹介していただき、とても参考になりました。
- 講師の岩居先生の親しみやすいお人柄や、分かりやすく実践的なご説明で、非常に勉強になりました。
- 一方的な講義でなく、参加型のワークショップだったのが良かったと思います。楽しく参加できました。
- 大変興味深いテーマだったので、参加させていただきました。学生にとって魅力のある授業になるように、様々なツールを使って工夫していく必要があるなと思いました。今回の内容は全ての学系に繋がる内容でしたので、ぜひ他の先生方にも知っていただきたいと思いました。便利な機能をどう自分の講義に活かせるかは、やはり人間が考えるべきところなので、工夫しだいなと思います。何年前にもオンラインスライドについて聞いたりもしましたが、聞くだけになっていたので、今回学んだことを小さいことからでも活用していきたいと思います。早速、講義

中に国家試験の4択問題を出すことがあるので、使ってみたいと思います。

- 大人数の授業を持つ際には非常に役立つようなツールだと思った。教員の側が使いこなすのに修練が要りそう。

<アンケート結果のまとめ>

今回の教養教育院FDについての感想・意見には9名からご回答をいただきました。全体としては、参加者の多くが「教育アプリやツールを知ることができ、とても参考になった」「使い方を理解できた」「授業に役立つそう」といった前向きな感想を寄せており、学びの収穫が大きかったことがうかがえます。具体的に「国家試験の四択問題を出す際に早速取り入れたい」「大人数授業で役立つそう」といった活用意欲を示す意見もあり、実践に結びつけようとする姿勢が見られました。また、分かりやすく実践的な説明、さらには参加型のワークショップ形式で進められたことを評価する声も複数あり、楽しく学べる場であったことがうかがえます。一方で、「自分の授業での活用イメージがまだ湧かない」「授業中に学生全員がネットを利用する際の接続や機器トラブルが心配」といった懸念も一部の参加者から示されました。また、「教員がツールを使いこなすためにはある程度の練習が必要」との指摘もあり、今後の活用には準備や工夫が求められることが分かります。

このように、アンケート結果から参加者の多くが新しいツールの利用についての可能性を感じつつも、授業現場での活用にあたっては環境整備やスキル習得といった課題もあることが明らかになりました。全体として、これからの教育実践に活かせる学びと課題が整理された、今後につながる有意義なFDであったといえます。

5. 今回の教養教育院FDについての感想やご意見があれば、ご記入ください。

- 対話を通じた学びのプロセス
- 導入学修の計画についてまとめて教えてもらいたいです。
- グループワークを活用した授業におけるファシリテーション技術の向上のためのFDを希望します。
- 今日のようなアクティブラーニングの手法について、継続的に学びたいと思います。
- 富山大学のトータルコミュニケーション支援の利用現状や取り組みなどについて、アクセシビリティ・トータルコミュニケーション支援室の方にお話しいただき、学生に対してどのようにサポートできるのかを、教養教育院のみならず全学の教職員間で共有する機会となるFDはどうか。